

令和2年 新春記者会見 要旨

1 はじめに

- ・ 市民の皆様におかれましては、希望にあふれる新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。
- ・ 令和の時代において初めて迎える新年が皆様にとって明るく、幸多き一年となるよう、心からお祈り申し上げます。

2 昨年を振り返って

- ・ 昨年を振り返ると、全国各地において風水害に見舞われ、本市においても、台風第19号が通過した際の降水量は、観測史上最多となり、田川・姿川流域を中心に甚大な浸水被害が発生した。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。
- ・ そのような中、消防団や自主防災会、自治会、民間のボランティア団体の皆様には、避難所の運営をはじめ、迅速な復旧支援活動に取り組んでいただき、心から感謝申し上げます。
- ・ また、昨年は、「令和」という新しい時代を迎えた年であり、本市も新たな取組に積極的に挑戦した年でもあった。
- ・ まず、5月には、先進技術の利活用により、社会課題の解決や新たな事業の創出を図る「スマートシティ」について、本市の提案が、国から全国のけん引役となる先駆的な取組として選定され、現在は、本市の理念にご賛同いただいた23の大学や民間企業の方々とともに取組を進めているところである。
- ・ さらに、7月には、「経済」、「社会」、「環境」が調和した持続可能なまちづくりを実現するポテンシャルの高い都市として、国から「SDGs未来都市」に選定されるとともに、私を本部長とする「推進本部」を立ち上げ、全庁をあげてSDGsの推進に取り組んでいる。
- ・ こうした新たな取組と併せて、本市の公共交通ネットワークの要となるLRTについては、鬼怒川橋りょうの建設やLRT車両の設計に取りかかるなど、着実に整備を進めるとともに、県都の顔となる、JR宇都宮駅東口地区についても、10月から施設の工事に着手するなど、まちの姿は大きく変わろうとしている。
- ・ また、国際的なスポーツイベントである「ジャパンカップサイクルロードレース」については、台風直後であったにもかかわらず、関係者の皆様の復旧活動により予定通り開催することができたところであり、「FIBA 3x3ワールドツアーうつのみやファイナル」については、ここ宇都宮で国際大会の最終戦が行われ、クラブチームの世界一が決定した。
- ・ 昨年は、これらの様々な取組により、国内外からの熱い視線が本市に注がれ、本市の存在感がより一層高まった年であった。

3 年頭に当たっての決意

- ・ 今後、人口の東京一極集中の加速化や少子化に伴う生産年齢人口の減少、地球温暖化に伴う気候変動などが進むとともに、AIやIoTなどのICTの急速な進展による情報格差の拡大が懸念されるなど、世の中の変化のスピードはますます速くなっている。
- ・ また、高齢化が進行する中、単身高齢者の増加に伴う「高齢者の孤立」の問題や高齢者の親とひきこもり状態の子が同居している「8050問題」が顕在化するなど、社会や家族が抱える課題も複雑化していくものと捉えている。
- ・ このような、これまで経験したことのない、先を見通すことが困難な時代にあっても、先人たちが築き上げてきたまちづくりの成果を引き継ぎ、それらを更に発展させながら、「人生100年時代の到来」を見据え、今を生きる市民の皆様と未来を生きる市民の皆様が幸せに暮らせるまちを実現していく。
- ・ そのためには、本市のまちづくりの羅針盤である、「第6次宇都宮市総合計画」に掲げた6つの未来都市の具体化を着実に推進し、特に、「安全・安心の未来都市」の分野においては、まずは、昨年の台風第19号の経験を踏まえ、国県等との連携を密にしながら、治水に関するあらゆる対策について、本年の出水期までにスピード感を持って取り組んでいく。
- ・ また、国の「先行モデルプロジェクト」に選定された、本市の「スマートシティ」の推進については、全線新設となるLRT沿線を中心に、市民の交通利便性の更なる向上につなげる「スマート・モビリティ」の取組をはじめ、観光や環境、更には安全・安心など、あらゆる分野において、最先端の技術が実装された未来のまちの実現に向けた実証実験を行うなど、全国に誇れる取組を進めていく。
- ・ さらには、「貧困をなくそう」、「気候変動に具体的な対策を」などの国際社会共通の目標である「SDGs」の達成に貢献することで、世界と協調した「誰一人取り残さない」社会の実現を目指していく。
- ・ こうした、子どもから高齢者、障がい者など、全ての市民がいつまでも元気に活躍し続けられる社会を実現するとともに、私の就任4期目の目標として掲げた「日本をリードする未来都市、うつのみやへ」の達成に向けて、全身全霊でまちづくりに取り組んでいく。

4 令和2年の主な取組

(1) 災害に強く安全・安心で強靱なまちの実現

- ・ 昨年の浸水被害からの復旧に全力で取り組むとともに、台風第19号をはじめとする水害の検証を踏まえ、「雨水対策強化推進チーム」を中心に、実効性のある取組を推進
- ・ また、「防災メール」や「防災ラジオ」の普及を促進し、情報伝達体制の強化に取り組むなど、ハード・ソフトの両面から災害に強いまちを実現

(2) NCCの強みを活かした「地域共生社会」の創出

・ NCCの強みを活かしたまちづくり

- ⇒ 健康ポイント事業，まちづくり活動応援事業による活動促進
- ⇒ 市内39地区へ「第2層協議体」を設置
- ⇒ 全ての子どもが生まれ育った環境に左右されることなく夢や希望を持って成長していけるよう，子どもと家庭を支援
- ⇒ 年度当初4年連続待機児童ゼロ，子どもの家等の運営体制の充実

・ 誰もが安心して快適に移動できるまちづくり

- ⇒ LRT車両製造や停留場名称検討などの駅東側の着実な整備，駅西側のLRT事業化に向けた議論
- ⇒ 地域連携ICカードの全国初の導入
- ⇒ 高齢者の外出機会の増加につながる，公共交通を利用しやすい環境づくり

(3) ICTを活用した市民の身近な暮らしの利便性向上や活力あるまちの形成

・ 窓口サービスの向上

- ⇒ AI等を活用した問合せへの回答，マイナンバーカードを利用した「待たない・書かない窓口」の実現
- ⇒ 音声翻訳アプリ導入タブレットによる外国人住民対応円滑化

・ あらゆる分野でICTを利活用した活力あるまちの形成

- ⇒ データを活用した健康づくりの推進
- ⇒ ドローン等を活用した災害対応
- ⇒ 中小企業や農業の生産性向上

・ 全国に先駆けて最先端技術の恩恵を受けられるまちの実現

- ⇒ スマートシティの取組（観光型MaaS及び地域内交通へのAIを活用した実証実験等）を推進

(4) 宇都宮ブランドの発掘・創造・発信による人や企業に選ばれるまちづくり

・ LRT沿線における拠点化の促進

- ⇒ JR宇都宮駅東口地区，「(仮称)平出町停留場」など，停留場やトランジットセンターを核とした周辺地域におけるまちづくり

・ 中心市街地の活性化

- ⇒ 低未利用地の利活用，一条中跡地への民間機能導入の具体化

・ 大谷地域の振興

- ⇒ グリーンスローモビリティなどを活用した地域内の回遊性向上を目指す実証実験や民間活力の誘導による賑わいの創出

・ 歴史や文化を守り，宇都宮に誇りを持つことができる環境づくり

- ⇒ 「(仮称)宇都宮市民遺産制度」による保存・活用支援
- ⇒ 市内小学校における「宇都宮学」の開始

- ・ **東京五輪を好機としたスポーツの魅力を活かしたまちづくり**
⇒ 東京五輪事前トレーニングキャンプの開催（3 x 3）
 - ・ **循環型社会の実現**
⇒ 「地域新電力会社」の設立準備
⇒ 新中間処理施設，新最終処分場の供用開始
 - ・ **若者等への情報発信の強化**
⇒ 若者が地元に戻って来られるよう，周辺市町と一体となり，地元就職促進などのきっかけづくりを強化
⇒ 東京圏における新たな拠点の創出により，本市の魅力の発信や企業との交流などを積極的に推進
- ・ これらの取組を進め，本市が，北関東の中核を担う都市として持続的な成長を続けることで，周辺自治体も含めた圏域の発展，引いては栃木県全体の発展にもつなげていく。

5 むすび

- ・ 以上，年頭にあたり，抱負の一端を申し上げたが，劇的に変化し続ける時代にあっても，本市が将来にわたって成長し続けるための未来への投資や，多様化する市民ニーズに的確に対応したまちづくりを進めることができるよう，現在，ただいま申し上げた施策・事業の具現化に向けて，新年度の予算編成及び執行体制の構築を進めるとともに，民間の優れたアイデアやノウハウをより効果的に取り入れることのできる体制を整備するなど，公民連携の更なる推進に取り組む。
- ・ 今後とも，本市が持続的に発展し，100年先まで輝き続けられる都市として日本をリードできるよう，市民・事業者の皆様と共に汗をかきながら，市政運営にまい進してまいりますので，引き続き，ご支援，ご協力をいただきますよう，よろしくお願い申し上げます。